

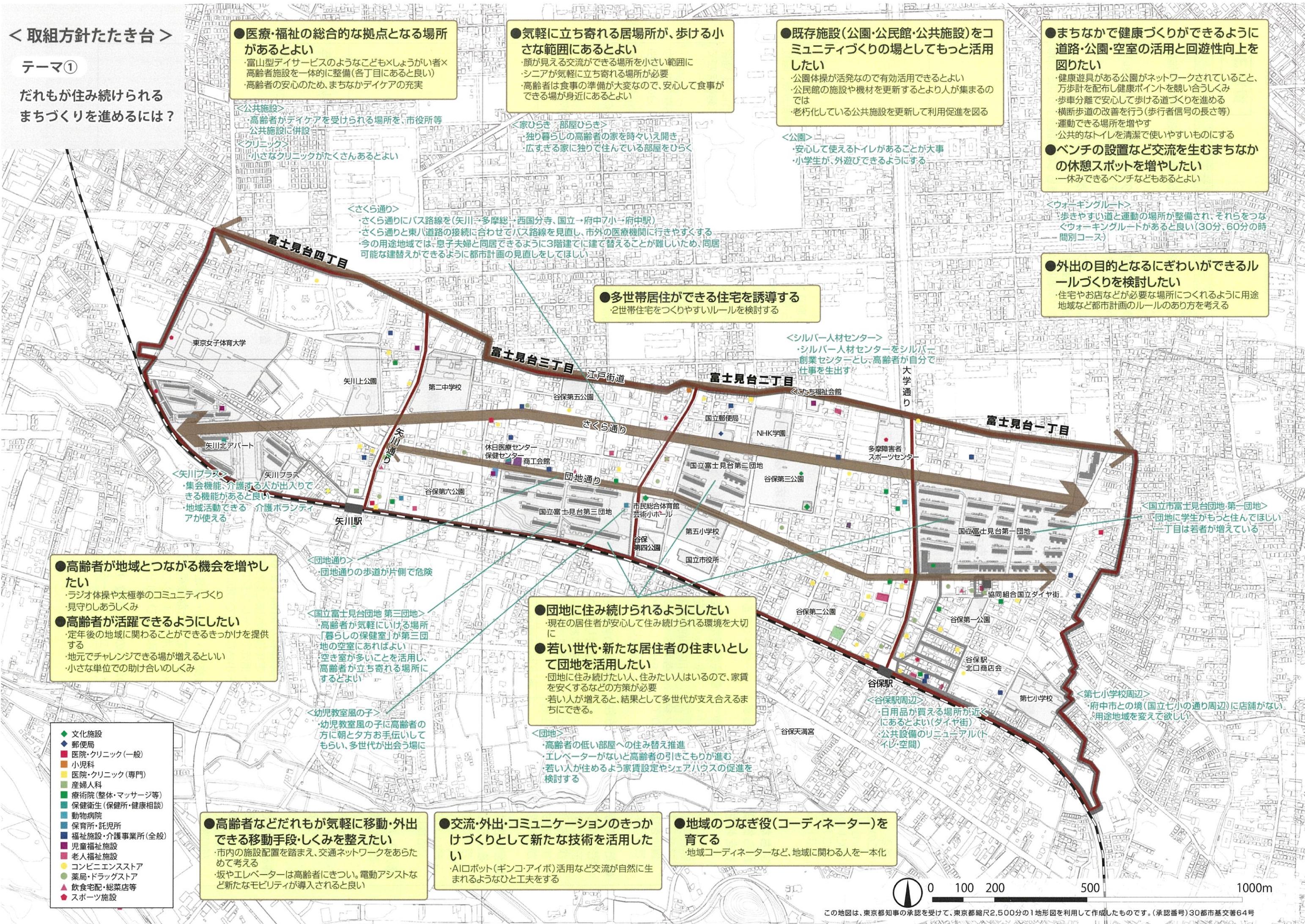
【テーマ①】だれもが住み続けられるまちづくりを進めには？

大切な考え方	取組みの方向性	取組みアイデア
●本当に助けが必要な人を支えることができる環境づくりを進める ・本当に動けなくなつた時に不安を抱えなくてよい環境づくりが大切である。 ・病気になつても自宅ですみ続けられる仕組みづくりが大切である	●医療・福祉の総合的な拠点となる場所があるとい ・富山型ディサービスのようなこども×しようがい者×高齢者施設を一体的に整備（各丁目にあると良い） ・高齢者の安心のため、まちなかディケアの充実	<公共施設> ・高齢者がディケアを受けられる場所を、市役所等公共施設に併設 <矢川バス> ・集会機能、介護する人が出入りできる機能があると良い ・地域活動できる／介護ボランティアが使える <クリニック> ・小さなクリニックがたくさんあるとい <国立富士見台団地 第三団地> ・高齢者が気軽にいける場所「暮らしへの保健室」が第三団地の空室にあればよい ・空き室が多いことを活用し、高齢者が立ち寄れる場所にすすむよい <家ひらき／部屋ひらき> ・独り暮らしの高齢者の家を時々いえ開き ・広すぎる家に独りで住んでいる部屋をひらく
●支え合いを経験する機会を増やし、このまちに暮らし続けたいと思える住民を増やす ・「顔が見えるコミュニティケーション」の機会が減り、支え合って暮らす経験が不足している住民が増えたので、それを経験する機会を増やすことが大切である ・「この人たちと一緒に年を取りたい」と思えることが「住み続けたい」の根本にある。このまちに「生活の根」が張れる地域になれるかどうかが重要である	●既存施設（公園・公民館・公共施設）をコミュニティづくりの場としてもっと活用したい ・公園体操が活発なので有効活用できるとい ・公民館の施設や機材を更新するとより人が集まるのでは ・老朽化している公共施設を更新して利用促進を図る	<団地> ・団地の空室を生かしたまちの保健室 ・団地の縁を守り、出かけたくなるまちに <団地通り> ・団地通りの歩道が片側で危険 <公園> ・安心して使えるトイレがあることが大事 ・小学生が、外遊びでできるようにする <さくら通り> ・さくら通りにバス路線を（矢川→多摩総→西国分寺、国立→府中アリ→府中駅） ・さくら通りと東八道路の接続に合わせてバス路線を見直す ・市外の医療機関に行きやすくなる ・今の用途地域では、息子夫婦と同居できるよう建替えがでて建て替えることが難しいため、同居可能な建替えができるように都市計画の見直しをしてほしい <ウォーキンググループ> ・歩きやすい道と運動の場所が整備され、それらをつなぐウォーキンググループがあると良い（30分、60分の時間別コース）
●まちなかを安心して歩きながら健康づくりができるまちをめざす ・まちに外出することが健康づくりにつながるまちにしたい ・健常寿命をのばすために、運動できる場所や安心して歩ける場所を増やし、つなぐことができる	●ベンチの設置など交流を生むまちなかの休憩スポットを増やしたい ・休みできるベンチなどもあるとい ●高齢者などだれもが気軽に移動・外出できる移動手段・しくみを整えたい ・市内の施設配置を踏まえ、交通ネットワークをあらためて考える ・坂やエレベーターは高齢者にきつい。電動アシストなど新たなモビリティが導入されるなど良い	<谷保駅周辺> ・日用品が買える場所が近くにあるとい（ダイヤ街） ・公共設備のリニューアル（トイレ・空間） <第七小学校周辺> ・府中市との境（国立七小の通り周辺）に店舗がない。用途地域を変えて欲しい <団地> ・高齢者の低い部屋への住み替え推進 ・エレベーターがないと高齢者の引きこもりが進む ・若い人が住めるよう家賃設定やシェアハウスの促進を検討する <国立市富士見台団地 第一団地> ・団地に住み続けられるようにしたい ・現在の居住者が安心して住み続けられる環境を大切に ●若い世代・新たな居住者の住まいとして団地を活用したい ・団地に住み続けたい人、住みたい人はいるので、家賃を安くするなどの方策が必要 ・若い人が増えると、結果として多世代が支え合えるまちにできる。
●だれもが住み続けられる住宅づくりを進める ・子育て世代から高齢者、しゃうがい者、外国人まで、だれもがすみ続けることができる住宅が提供されるとい	●若い世代がまちで活躍できるよう住まいを提供する ・若者が住めるような住宅を提供したい ・若い人が居住者になって地域で活躍してもらいたい	<幼稚教室風の子> ・幼稚教室風の子に高齢者の方に朝と夕方お手伝いしてもいい、多世代が出会う場に <シルバーパー入材センター> ・シルバーパー入材センターをシルバー創業センターとし、高齢者が自分で仕事を生み出す
●みんなで協力して地域の活動情報を必要な人に届ける ・地域の活動情報をどのように届けるか工夫が必要である ・みんなが情報を発信できて、みんなが情報を受け取れる仕組みと体制が必要である	●高齢者が地域とつながる機会を増やしたい ・ラジオ体操や太極拳のコミュニティづくり ・見守りしあうしくみ	●交流・外出・コミュニケーションのきっかけづくりとして新たな技術を活用したい ・AIロボット（シンコ・アイボ）活用など交流が自然に生まれるようないじ工夫をする
●地域のつなぎ役（コーディネーターなど、地域に関わる人を一本化		●地域のつなぎ役（コーディネーター）を育てる ・地域コーディネーターなど、地域に関わる人を一本化

<取組方針たたき台>

テーマ①

だれもが住み続けられる
まちづくりを進めるには？



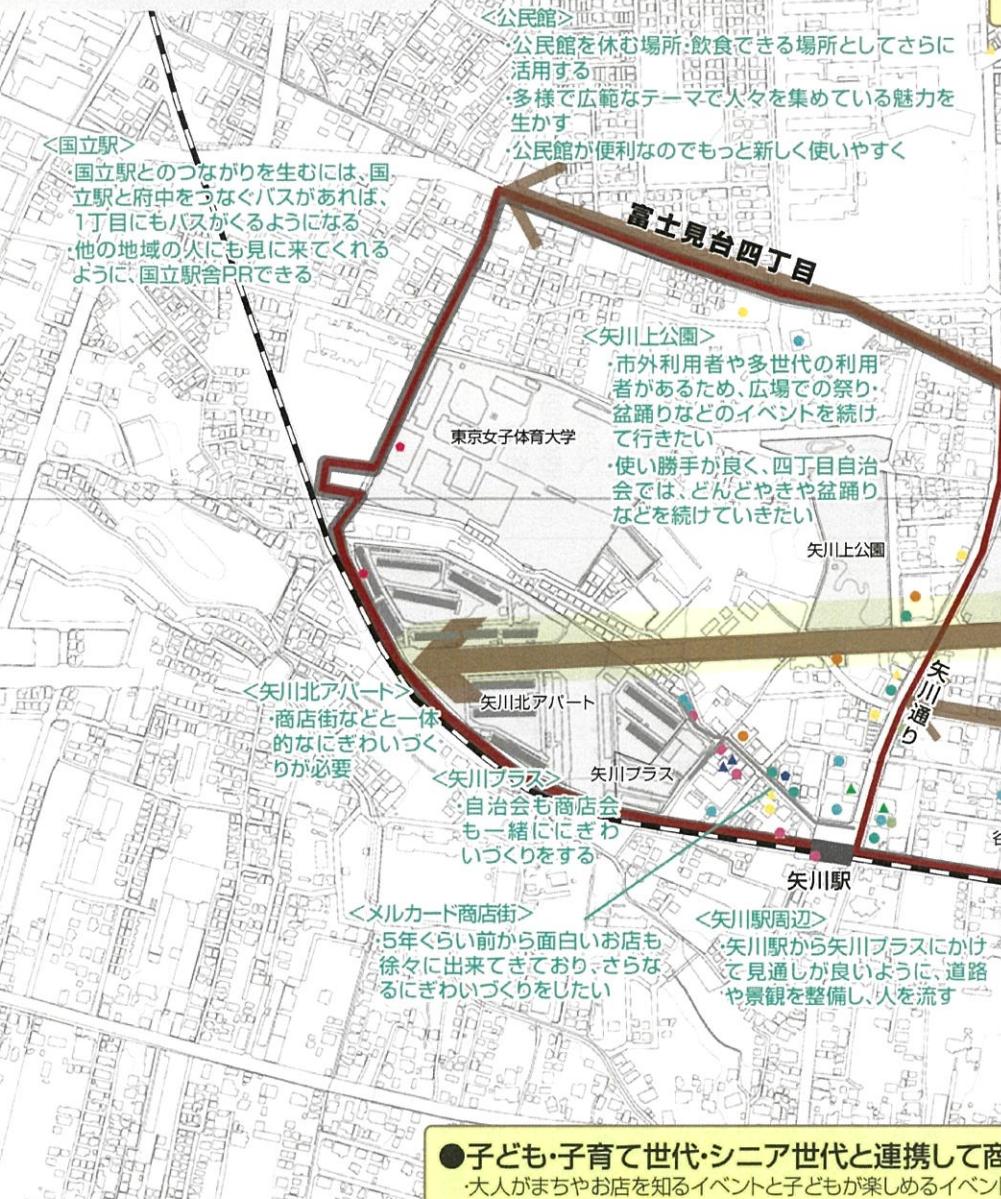
[テーマ②] まちのにぎわいづくりを進めるには？

大切な考え方	取組みの方向性	取組みアイデア
●今の落ち着いた雰囲気と共存する富士見台らしいにぎわいとする	<ul style="list-style-type: none"> ●多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを生み出したい ・多様な機能が集約された拠点があると良い ・公民館・図書館・カフェなどと組み合わせる ・公共施設を新しく大きく市内地図ごとに設置したい ●まちに開かれた公共施設にしたい ・公共施設の建替えにあわせてオーブンカフェを併設 	<p><くにたち 中央図書館></p> <p><公民館></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館にカフェを併設してまちに開かれた場所に ・公民館を休む場所・飲食できる場所としてさらにに活用する ・多様で広範なテーマをもつている魅力を生かす ・公民館が便利な施設なのでもっと新しく使いやすく <p><矢川バス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会も商店会も一緒ににぎわいづくりをする
●コミュニティづくりを通じて、日常的にぎわいがある環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●団地を活用してにぎわいを生み出したい ・団地に、にぎわい創出機能の導入を検討できないか ・団地の空室を活用してにぎわい創出につなげる ・団地内に子どもたちの声が聞けて歩いて行ける居場所 ・学生や若い働く世代を誘致する仕組みづくり ・外国人との「食」を通じた異文化交流があると良い ・エレベータがない団地を、住みやすい団地にするためにも資金・制度などで市も協力して進めてほしい、 	<p><国立市富士見台団地 第一団地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から集まる学生をにぎわいづくりに活用する ・若い人々（学生）や2LDKの子育て世代用住宅を増やす ・働く場や優良企業を誘致して働く世代を集めめる ・現在の団地は、閑散として入居率も低いため、高層マンションなど建て替える検討したい ・お祭り等を通じて外国人（留学生等）との交流を深める ・たまご広場はオープンで、様々な人に利用してほしい ・騒音問題があるため、使い方も工夫しながら活用する
●若者や子育て世代が集まる場や機会をつくることで、多世代交流を生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ●団地の行事を地域みんなで楽しみたい ・中高生や団地住民以外の一般参加が少ないので、いろんな方に参加してほしい ・相互交流を図るために、他の地域の人にも団地の活動やお祭りに来てもらう ・多世代が踊りに来たくなる盆踊りの工夫 	<p><国立市富士見台団地 第三団地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店が少ないので、富士見台らしいお店を誘致する ・ちびっこ広場の活用を商店街と一緒に工夫していく ・団地の空室やアーケード街の商店の空き店舗を利用して、子どもから高齢者まで多世代が集まる場づくりをしたい <p><矢川北アパート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街などと一緒ににぎわいづくりが必要
●市民がモノ・コトをシェアすることによってにぎわう場所を回遊できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●通りと沿道店舗にゆっくりひと休みできるスポットがあるとよい ・高齢者が外出したくなるように、外でゆっくりひと休みできる環境を整えることが大切 ・外で気軽に一度みできるオープントンカフェが増えると良い 	<p><さくら通り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と協力して散歩中に一休みできるベンチや休憩所 ・富士見台全体のお祭があると良い ・道路の延伸に伴い、車も通りやすく、人も歩きやすい道路で、桜並木での美しい景観も形成していく新しい感覚の道路を考える <p><富士見台一丁目東之原></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さくら通りが延伸したら、富士見台の玄関になるため、用途を変えてほしい
●市民が地域を回遊する	<ul style="list-style-type: none"> ●道路活用のイベントで楽しみごとをつくりたい ・道路を使つたイベントでにぎわいづくりができると良い ・定期期間中、道に机を出してビアガーデンができると良い ・四季を感じるなど、高齢者の散歩ど買い物やイベント参加などが組み合わせられると良い 	<p><谷保第三公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民サークル活動を続けて散歩中に一休みできるベンチや休憩所 ・市民が自主的に行つているラジオ体操を続けていきたい <p><谷保第五公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる、ワクワクする遊具を再整備してほしい <p><矢川上公園></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市外利用者や多世代の利用者があるため、広場での祭り・盆踊りなどのイベントを統合で行きたい ・使い勝手が良く、四丁目自衛会では、どんどんやきや盆踊りなどを継続していきたい <p><農地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢川駅から谷保駅にかけて「農産物販売所めぐり」マップをつくり、そこで買った野菜で作った料理をSNSで発信し、国立産の農作物を活かす
●にぎわいを生み出す場や活動を発信していく	<ul style="list-style-type: none"> ●公園を積極的に活用して活動の見える化すること ・みんなの活動が見えて、周りの人も足を止めてくれる ・公園や広場のイベントを通して若者を地域に呼び込む ・自治会のイベントで若者の呼び込み ・お店活動紹介、交流など、公園を活用したイベント ●公園と隣接したにぎわい機能を誘導する ・オーブンカフェ併設など、公園をもっと豊かに活用する ●公園の特性にあわせた活用方法を工夫したい ・富士見台地域にある個人やグループでお店を出せる日をつくる ・公園の中で都市農地を回遊性の資源として活用する ●農を生かして、地域をめぐる仕組みづくりがしたい ・都市農地を回遊性の生み出しが資源として活用する 	<p><谷保北口商店街></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民から利用され、大切にされる店舗を残す <p><メルカード商店街></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年くらい前から面白いお店も徐々に出来てきており、さらなるにぎわいづくりをしたい <p><矢川駅周辺></p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢川駅から矢川プラスにかけて見通しが良いように、道路や景観を整備し、人を流す <p><谷保駅周辺></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は朝夕だけの利用なので、まちにも出たくなるような場や工夫が必要 <p><国立駅></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立駅とのつながりを生むには、国立駅ど府中をつなぐバスがあれば、1丁目にもバスがくるようになる ・他の地域の人にも見に来てくれるようになる ・国立駅PRで
●駅周辺の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども・子育て世代・シニア世代と連携して商店街を元気にすることににぎわいづくりにつなげたい ・大人がまちやお店を知るイベントなど子どもが楽しめるイベントを組み合わせる ・子どもたちが商店街お店の1日店長をする ・シニアがいい商いでできるスペースを支援する ●お店だけではないナールファの機能を確保する ・定休日に2週に一回くらいお試しお店ができる環境 ・商店街の宅配サービスを充実させる ・商業機能だけでなく、他機能と融合し、既成概念を変えて、みんなが来たといえる場にしていく ●商店街のお店を活用できるサービスや仕組みづくりを考えたい ・定休日に2週に一回くらいお試しお店ができると良い ・商店街の宅配サービスを充実させる 	<p><谷保天満宮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷保天満宮のお祭りと連携して保育園児、小中学生が楽しめるFestaができると良い

<取組方針たたき台>

テーマ②

まちのにぎわいづくりを
進めるには？



- 多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを生み出したい
 - ・多様な機能が集約された拠点があると良い
 - ・公民館・図書館・カフェなどと組み合わせる
 - ・公共施設を新しく大きく市内地区ごとに設置したい
- まちに開かれた公共施設にしたい
 - ・公共施設の建替えにあわせてオープンカフェを併設

- <公民館>
 - ・公民館を休む場所・飲食できる場所としてさらに活用する
 - ・多様で広範なテーマで人々を集めている魅力を生かす
 - ・公民館が便利なのでもっと新しく使いやすく

<国立駅>
・国立駅とのつながりを生むには、国立駅と府中をつなぐバスがあれば、1丁目にもバスがくるようになる
・他の地域の人にも見に来てくれる
ように、国立駅舎PRできる

- <矢川上公園>
 - ・市外利用者や多世代の利用者があるため、広場での祭り・盆踊りなどのイベントを続けて行きたい
 - ・使い勝手が良く、四丁目自治会では、どんどやきや盆踊りなどを続けていきたい

- <矢川北アパート>
 - ・商店街などと一緒ににぎわいづくりが必要

- <矢川駅周辺>
 - ・5年くらい前から面白いお店も徐々に出来てきたり、さらなるにぎわいづくりをしたい

- 子ども・子育て世代・シニア世代と連携して商店街を元気にすることにぎわいづくりにつなげたい
 - ・大人がまちやお店を知るイベントと子どもが楽しめるイベントを組み合わせる

- お店だけではない+アルファの機能を確保する
 - ・定休日に2週に1回くらいお試しお店ができると良い
 - ・商店街の宅配サービスを充実させる
 - ・商業機能だけでなく、他機能と融合し、既成概念を変えて、みんなが来たいといえる場にしていく

- 商店街のお店を活用できるサービスや仕組みづくりを考えたい
 - ・定休日に2週に1回くらいお試しお店ができると良い
 - ・商店街の宅配サービスを充実させる

- 2つ駅がある利点を生かしたい
 - ・団地と地産地消と医療の充実などあれば引っ越してくれる高齢者がいる

- 駅周辺の土地利用のルールを考えたい
 - ・住宅増加を抑止するため、駅前土地利用のルール作りを

- にぎわい生み出すイベント方法を工夫したい
 - ・地元のお祭りと連携して子どもたちが楽しめるイベントを実施できると良い
 - ・大人も楽しめるイベントがあると良い

- 通りと沿道店舗にゆっくりひと休みできるスポットがあるとよい
 - ・高齢者が外出したくなるように、外でゆっくり一休みできる環境を整えることが大切
 - ・外で気軽にゆっくり一休みできるオープンカフェが増えると良い
- 道路活用のイベントで楽しみごとをつくりたい
 - ・道路を使ったイベントでにぎわいづくりができると良い
 - ・一定期間中、道に机を出してピアガーデンができると良い
 - ・四季を感じるなど、高齢者の散歩と買い物やイベント参加などが組み合わせられると良い

- 公園と隣接したにぎわい機能を誘導する
 - ・オープンカフェ併設など、公園をもっと豊かに活用する

- 公園の特性にあわせた活用方法を工夫したい
 - ・富士見台地域にある大小の公園の活用方法を工夫する
 - ・公園の中で個人やグループでお店を出せる日をつくる

- <さくら通り>
 - ・企業と協力して散歩中に一休みできるベンチや休憩所
 - ・富士見台全体のお祭りがあると良い
 - ・道路の延伸に伴い、車も通りやすく、人も歩きやすい道路で、桜並木での美しい景観も形成していく新しい感覚の道路を考える
 - ・矢川北アパート側も延伸して、通り抜けできるようすれば、利便性が高まる

- <谷保第五公園>
 - ・子どもが楽しめる、ワクワクする遊具を再整備してほしい

- <江戸街道>
 - ・谷保第五公園
 - ・谷保第六公園
 - ・休日診療・保健センター
 - ・商工会館
 - ・団地通り
 - ・さくら通り
 - ・江戸街道
 - ・谷保第三公園
 - ・谷保第四公園
 - ・第五小学校
 - ・谷保第一公園
 - ・谷保駅
 - ・谷保天満宮

- <谷保第三公園>
 - ・市民サークル活動
 - ・給食を続けていきたい
 - ・市民が自主的に行っているラジオ体操を続けていきた

- <谷保第三公園>
 - ・商店が少ないので、富士見台らしいお店を誘致する
 - ・ちびっこ広場の活用を商店街と一緒に工夫していく
 - ・団地の空室やアーケード街の商店の空き店舗を利用して、子どもから高齢者まで多世代が集まる場づくりをじたい

- <谷保第四公園>
 - ・商店が少ないの、富士見台らしいお店を誘致する
 - ・市民が自主的に行っているラジオ体操を続けていきた
 - ・団地の空室やアーケード街の商店の空き店舗を利用して、子どもから高齢者まで多世代が集まる場づくりをじたい

- <谷保第一公園>
 - ・谷保駅
 - ・谷保天満宮

- <谷保駅周辺>
 - ・地域住民から利用され、大切にされる店舗を残す

- <谷保駅北口商店街>
 - ・谷保駅北口商店街

- <谷保駅東之原>
 - ・谷保駅東之原

- <谷保天満宮>
 - ・谷保天満宮のお祭りと連携して保育園児・小学生が楽しめるFestaができると良い

- <谷保天満宮>
 - ・谷保天満宮のお祭りと連携して保育園児・小学生が楽しめるFestaができると良い

- 公園を積極的に活用して活動の見える化することにぎわいをつくりたい
 - ・みんなの活動が見て、周りの人も足を止めてくれる

- 公園や広場のイベントを通して若者を地域に呼び込む
 - ・自治会のイベントで若者の呼び込み
 - ・お店活動紹介・交流など、公園を活用したイベント

- 公園と隣接したにぎわい機能を誘導する
 - ・オープンカフェ併設など、公園をもっと豊かに活用する

- 公園の特性にあわせた活用方法を工夫したい
 - ・富士見台地域にある大小の公園の活用方法を工夫する
 - ・公園の中で個人やグループでお店を出せる日をつくる

- 農を生かして、地域をめぐる仕組みづくりがしたい
 - ・都市農地を回遊性の生み出す資源として活用する

- <農地>
 - ・矢川駅から谷保駅にかけて「農産物販売所めぐり」マップをつくり、そこで買った野菜で作った料理をSNSで発信し、国立産の農作物を活かす

- <谷保駅周辺>
 - ・谷保駅から谷保駅にかけて「農産物販売所めぐり」マップをつくり、そこで買った野菜で作った料理をSNSで発信し、国立産の農作物を活かす

- 団地を活用してにぎわいを生み出したい
 - ・団地に、にぎわい創出機能の導入を検討できないか
 - ・団地の空室を活用してにぎわい創出につなげる
 - ・団地内に子どもたちの声が聞けて歩いて行ける居場所
 - ・学生や若い働く世代を誘致する仕組みづくり
 - ・外国人との「食」を通じた異文化交流があると良い
 - ・エレベーターがない団地を住みやすくするために資金・制度などで市も協力して進めてほしい

- 団地の行事を地域みんなで楽しむ
 - ・中高生や団地住民以外の一般参加が少ないので、いろんな方に参加してほしい
 - ・相互交流を図るために、他の地域の人にも団地の活動やお祭りに来てもらう
 - ・多世代が踊りに来たくなる盆踊りの工夫

- <谷保駅周辺>
 - ・谷保駅周辺
 - ・谷保駅北口商店街
 - ・谷保駅東之原
 - ・谷保駅
 - ・谷保天満宮

- <谷保駅北口商店街>
 - ・谷保駅北口商店街

- <谷保駅東之原>
 - ・谷保駅東之原

- <谷保天満宮>
 - ・谷保天満宮

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものです。(承認番号)30都市基交署64号

0 100 200 500 1000m

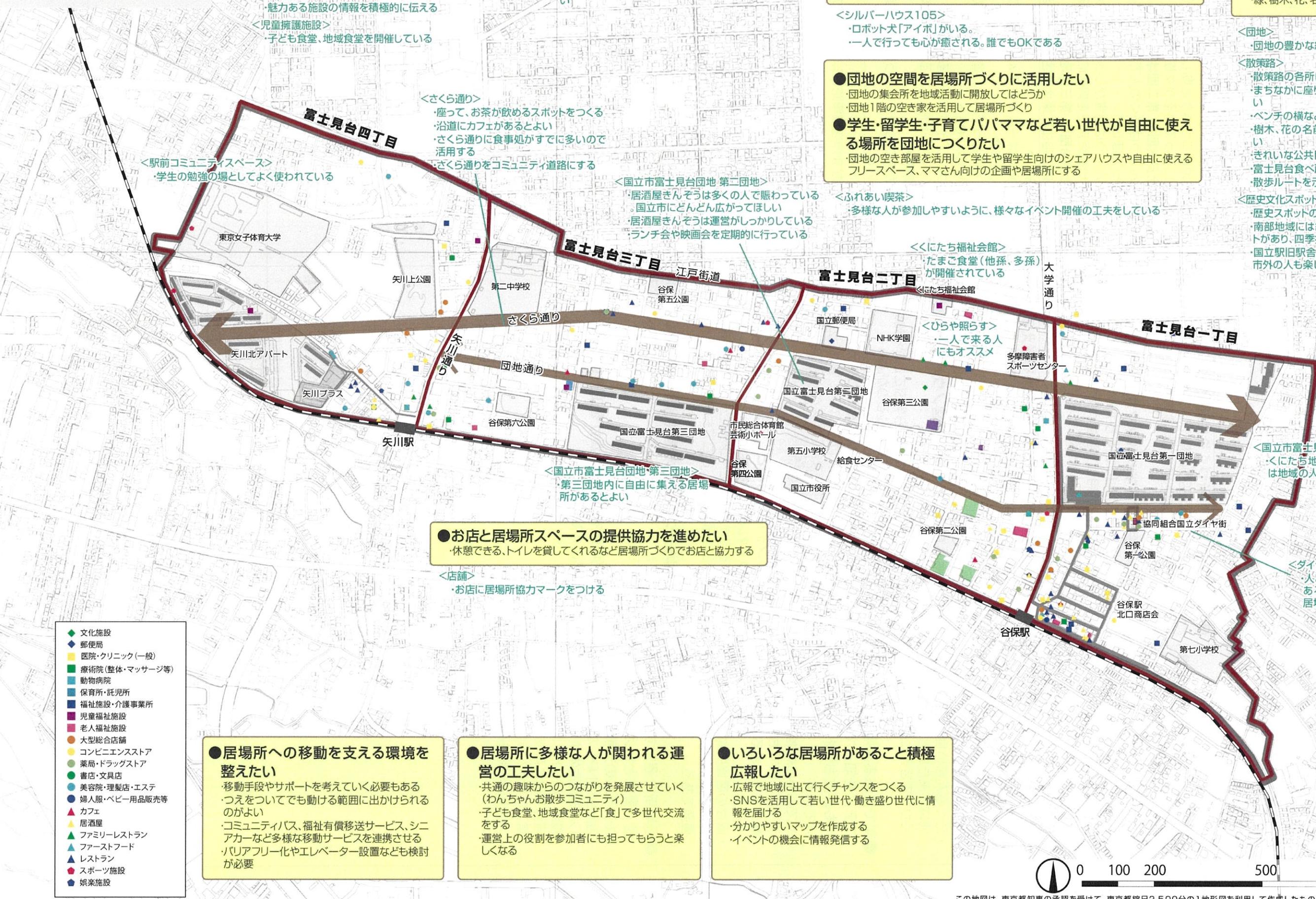
【テーマ③】 様々な世代にとつて心地よい居場所づくりを進めるためには？

大切な考え方	取組みの方向性	取組みアイデア
●居場所にこころと思想する 機づくりを大切にする ・居場所に行こうという気持ち にさせることができない。特に高齢男性はなかなか地域に出づらい傾向がある ・居場所へ行くと役割がある、興味あるプログラムがあるなど、動機づけが大切になる	●中高生の居場所づくりは公共スペースの活用から始めたい ・中高生が地域のコミュニティスペースに急に来るのはハードルが高いので、公共施設を活用して休憩や勉強できるところがよい	<福祉センター> <子ども食堂（他孫、多孫）が開催されている <児童擁護施設> <駅前コミュニティスペース> <公民館・図書館・芸小ホール> <公共施設> ・魅力ある施設の情報を積極的に伝える
●子ども・中高生が地域に参加する経験を育む居場所の役割を大切にする ・子どもたちの頃から地域に参加する経験が地域への愛着を育む ・子どもたちが居場所に行ったくなり、地域活動に馴染むには小さな頃からの地域との関係づくりが大切となる	●団地の空間を居場所づくりに活用したい ・団地の集会所を地域活動に開放してはどうか ・団地1階の空き家を活用して居場所づくり。 ●学生・留学生・子育てママなど若い世代が自由に使える場所を団地につくりたい ・団地の空き部屋を活用して学生や留学生向けのシェアハウスや自由に使えるフリースペース、ママさん向けの企画や居場所にする	<国立市富士見台団地 第一団地> ・くにたち地域コラボが活動している。（手前塾）は地域の人方が先生になつていてるが女性が多い <国立市富士見台団地 第二団地> ・居酒屋さんぞうは多くの人で賑わっている。国立市にどんどん広がつてほしい ・居酒屋さんぞうは運営がしっかりしている ・ランチ会や映画会を定期的に行っている。 <国立市富士見台団地 第三団地> ・第三団地内に自由に使える居場所があるといい
●すでにできるところの運営のひと工夫を考える ・すでにできているコミュニティに入つて行くのはハードルが高いので、きてもらう工夫をする ・「行ってみようよ」と誘う ・多様な催しで参加したいと思える興味の幅を広げる ●すでにある居場所の魅力や運営ノウハウを知り・学び、地域に広げていく ・すでに運営されている居場所から学ぶことから始める ・まずは行ってみて、楽しさを感じるのがよい	●すでにある居場所の運営のひと工夫を考える ・すでにできているコミュニティに入つて行くのはハードルが高いので、きてもらう工夫をする ・「行ってみようよ」と誘う ・多様な催しで参加したいと思える興味の幅を広げる ●すでにある居場所の魅力や運営ノウハウを知り・学び、地域に広げていく ・すでに運営されている居場所から学ぶことから始める ・まずは行ってみて、楽しさを感じるのがよい	<ひらや照らす> <居酒屋さんぞう> <シルバーハウス 105> <ふれあい喫茶> ・ひらや照らすは一人で来る人にもオススメ ・多くの人で賑わっている。運営がしっかりとしている ・ロボット犬「アイボ」がいる。 ・一人で行つても心が癒される。誰でもOKである ・多様な人が参加しやすいように、様々ないベント開催の工夫をしている。
●まちなかの多様な空間を居場所として活用する ・公共施設や既存の居場所だけではなく、道路、公園、オーブンスペースなど、多様な空間やスペースを居場所として活用できないか可能性を探りたい ●可動式ベンチの活用など、まちなかのどこにでも居場所ができる工夫をする ・挨拶できる向かい合ったベンチを公園に置く、まち中に可動式の椅子を置くなど、どこでも居場所がつくれる	●まちなかの多様な空間を居場所として活用する ・公共施設や既存の居場所だけではなく、道路、公園、オーブンスペースなど、多様な空間やスペースを居場所として活用できないか可能性を探りたい ●可動式ベンチの活用など、まちなかのどこにでも居場所ができる工夫をする ・挨拶できる向かい合ったベンチを公園に置く、まち中に可動式の椅子を置くなど、どこでも居場所がつくれる	<団地> ・団地の豊かな緑を散策路としてみんなの資源にする <公園> ・芝がある公園。寝転がれるところが欲しい ・フランコなど危険を伴う遊具撤去の傾向は良くない ・座って、お茶が飲めるスポットをつくる ・沿道にカフェがあるといい ・さくら通りに食事処がすでに多いので活用する ・さくら通りをコミュニティ道路にする <ダイヤ街> ・人と人のふれあいがある商店街をまちの居場所とする ・お店に居場所協力マークをつける <散策路> ・散策路の各所に簡易運動器具や健康遊具の設置 ・まちなかに座りやすくきれいなベンチが多くあると良い ・ベンチの横などに説明版を設置する ・樹木、花の名前・咲く時期がわかるサインがあるといい ・きれいな公共トイレスが各所にあると歩いていて安心 ・富士見台食べ所、マップチラシ、協力店に置く ・散歩ルートを示すマップを充実させる <歴史文化スポット> ・歴史スポットの説明サインを設置する ・南部地域には縄文遺跡や勇水帯など魅力あるポイントがあり、四季折々に歩き回れるコースを充実させる ・国立駅旧駅舎を出発。市内めぐりのコースを作成し、市外の人も楽しめるコースを考える。
●居場所を運営する主体の発掘・育成と魅力ある運営プログラムの充実を図る ・自治会やNPOなど、しっかりと運営主体が大切となる ・場所（ハード）だけではなく、運営人材の育成や魅力ある運営プログラムの企画・提供などソフトの取組みが大切である	●多様な居場所を巡れるしかけを工夫して、まちの回遊性を高めたい ・緑、樹木、花、名所を散策できるようにする	<歴史文化スポット> ・多様な居場所を巡れるしかけを工夫して、まちの回遊性を高めたい ・緑、樹木、花、名所を散策できるようにする
●居場所への移動を支える環境を整えたい ・共通の趣味からのつながりを発展させていく（わんちゃんお散歩コミュニティ） ・子ども食堂、地域食堂など「食」で多世代交流をする ・運営上の役割を参加者にも担つてもらうと楽しくなる ●いろいろな居場所があること積極広報したい ・広報で地域にて行くチャンスをつくる ・SNSを活用して若い世代・動き盛り世代に情報を届ける ・分かりやすいマップを作成する ・イベントの機会に情報発信する	●居場所への移動を支える環境を整えたい ・移動手段やサポートを考えていく必要もある ・つえをついてでも動ける範囲に出かけられるのがよい ・コミュニティバス、福祉有償移送サービス、シニアカーなど多様な移動サービスを連携する ・バリアフリー化やエレベーター設置なども検討が必要	

<取組方針たたき台>

テーマ③

様々な世代にとって心地よい
居場所づくりを進めるには?



【テーマ④】歩きたくなるまちのつくり方・使い方の工夫は？

大切な考え方	取組みの方向性	取組みアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ●道路だけではなく、公園・団地・街路樹・庭などの緑やオープンスペースをつなぎ、歩いて回れるようになります。 ●緑やオープンスペースをつなげることで楽しく歩いて回れるようになります。 ●公園や団地の緑は貴重な資源として保全して連続性を持たせる個人の庭の緑も貴重な資源として活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ●団地の豊かな緑と街路樹のつながりをつくりたい ・通りの街路樹や富士見台団地のみどりを大切にしてつなげる ●富士見台地域の緑と谷保・多摩川・立川の緑を広域でネットワークさせる ・富士見台地域の緑を拠点として、谷保・多摩川や立川の緑地等を結び「バードライン」としてネットワークさせる ●団地の緑とオープンスペースを継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を考える ・鳥、セミの声を楽しめるように、団地の緑を大切にする ・団地の緑を子どもたちのために活用する ・オープンピープルイベントな場所を分ける ・問題はコミュニケーションで解決する 	<ul style="list-style-type: none"> <国立富士見台団地 第三団地> ・調整池の周りを歩いて楽しめるようになります <国立富士見台団地> ・団地を津替える場合は、建物の形が四角なので、曲線のデザインが良い
<ul style="list-style-type: none"> ●だれもが歩きやすい空間の改善・整備を進める ・ベビーカーを使う子育て中の方、高齢者、車いすの方も安心して外出できるようにパリアフリーの整備を進めます。 ●自転車や車と歩行者が混在しない歩きやすい道路にする 	<ul style="list-style-type: none"> ●さくら通りを中心として個性の違う各道路をつなぎ、歩いて回れる歩行者ネットワークをつくりたい ・さくら通り、団地通り、南武線沿いの道路、地区内の道路などを歩行者が歩いて回れるようにする ●南武線沿い道路の電車が見える、地形起伏の面白さといった個性を生かす工夫がしたい ・南武線沿いの道路は鉄道が地上で走っていて見えるだけではなく、地形の起伏もあって面白い道なので、もっと歩きたくなるような工夫をしてはどうか。 ●歩きやすい東京女子体育大学までの道路をさらに魅力化したい ・東京女子体育大学を通る道が、車が通らず歩きやすい。花を植えるなどして歩いて楽しい道にしてはどうか。 ●自転車道のルールや交通マナー、交通安全の向上を図り、安全な歩行環境とする ・自転車の交通マナーを向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> <大学通り周辺> ・大学通り周辺に歩行者専用路を設定する <さくら通り> ・さくら通り西端線路で途切れる道を魅力的にする <バス路線を誘致してほしい> ・昔はススキが生えていて、坂のある地形がおもしろい <南武線沿いの道路> ・鉄道写真の撮影が趣味の人も見かける <南武線通りは歩きやすいので、線路側に花を植える<芸小ホール前の団地通り> ・歩道が狭く、金網フェンスが多い。植え込みも高く歩きづらい(防犯、防災上危ない) <東京女子体育大学の裏道> ・より歩きやすく安全にして、歩いて楽しい空間にする <花を植えて歩いて楽しい道にする<地区内の道路> ・生活道路を曲線にして自動車が走りづらい道にする <谷保天満宮の崖線下道路> ・自転車と歩行者が混在を解消して歩きやすくなる <さくら通り> ・月1回や桜の時期などに歩行者専用にして、道路空間を使いつらさを体験できる試みがあると良い。 <さくら通りと隣接する公園> ・木かげ、ベンチ快適に歩ける工夫をする <お弁当などちょっと休めるあずまやが欲しい<矢川上公園> ・お弁当などちょっと休めるあずまやが欲しい <トイレが使えず、お店のトイレを使っている<江戸街道> ・江戸街道(どろぼう街道)の魅力の復活 <地域の稲荷> ・「お稲荷さん歩き」として、個人(特に本家にある)のお稲荷をネットワークする <個人の庭や家の軒先> ・小さなまちのしかけがあるらしい。家の軒先や窓先に少しあるスペース。まちの人にひらいでいると良い <まちを楽しく歩けるように、個人の家先を工夫する<谷保駅・矢川駅> ・回遊道路の地図を掲示板に掲示する
<ul style="list-style-type: none"> ●適切な管理を通じて屋外空間の質を高める ・植栽管理や設備充実を通じて屋外空間の質を高める ●地域資源をみんなにもっと知つてもいい、点ではなく、面的に活用する ・多くの資源が、市民に知られていないので、まずは知つてもらうことから始める ●点になつている地域資源をつなげる、関係づけて面的に楽しむ ・歩くのが楽しくなる歴史や地域ストーリーを発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ●だれに・どのように使つて欲しいかを想定し、外に出しきくなる目的地の魅力づくりを行う ・歩きたくなるような目的の設定や仕組みがあると良い ・目的地は、だれがどのようによく使つて欲しいかを考えて整備することが大切である 	<ul style="list-style-type: none"> <江戸街道> ・座りたくなる楽しくキレイなベンチ ・店舗、休憩できるカフェや居場所をつくる ・喰下食を提供する高齢者が外食できるレストラン ●地域資源を回って巡りたくなるストーリーやテーマ設定と情報発信、サインの充実を図り、地域内資源ネットワークを形成する ・甲州街道だけでなく江戸街道なども国立の歴史として、今と昔、江戸(東京)と国力をつなぐことで魅力を高める ・地域資源や価値のわかるサイン設置やマップ作成 ・南武線南地区の・城山地区矢川の源流地ママ下湧水等の情報発信をする ・ドラマ撮影スポットをPRして聖地巡礼につなげる ・歩く目的づくりとして、農産物販売者のスタンプラリーや万歩計を配布する ・町名、境界線の明確化
<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通や国立・谷保地域からの動線なども踏まえて、富士見台東側に商業施設がないので行く目的がなく回遊性がない。都市計画のルールを考える ●都市計画道路整備による環境への影響を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ●富士見台の東側エリアのにぎわい誘導を考えたい ・富士見台東側に商業施設がないので行く目的がなく回遊性がない。都市計画のルールを考える ●環境問題について考えるために、都市計画道路の場所を把握することは重要 	

<取組方針たたき台>

テーマ④

歩きたくなるまちの
作り方・使い方の工夫は？

